

場所 大阪府堺市

面積 109.1ha

- 活動目的**
- 大阪湾ベイエリアにおける都市再生の実験場として多様な主体の力を結集して海辺に自然環境を取り戻すことを基本方針としている。
 - 人間主体の公園作りではない自然の生態系や生物の生息空間の創出を行い、負の遺産である処分場跡地に新たな価値の創出を目指す。

- サイト概要**
- 昭和49年2月(1974)～平成16年3月(2004)まで30年間にわたり産業廃棄物を受け入れて来た産業廃棄物最終処分場。約280haのうち約110haを森林やビオトープ空間などの自然環境の創出をめざす「共生の森」として府民協働により整備を進めている。
 - 令和5年度末時点で産業廃棄最終物処分場として管理されており、通常時に一般には開放されていない場所となっている。
 - 平成16年度から府民参加のワークショップを開催し、森づくりの方向性を決め、府民、企業等による森づくりを推進し「自然創出」に取り組んでいるところ。また、自然創出だけでなく、「自然観察会」や「自然体験イベント」なども実施している。



土地利用の 変遷

- 平成16年3月の埋め立て完了当初は、植物のない原野が広がっていた。
- 平成16年度から植樹イベントを開催し自然創出に取り組む。人による植栽のほか、鳥や動物に運ばれてくる植物、風や海流により運ばれてくるなど、植物は様々な手段により進出し、多様な植生環境が出現。それに伴い、植生の状況に適した生き物が進出してきている。

サイト周辺の 環境

- 堺第7-3区は北側・東側・西側の三方を海に囲まれている。陸地とつながる南側は工業地帯に接しており、本来の陸地とは隔離された環境にある。
- 産業廃棄物処分場跡地の「共生の森」以外のエリアは、運動広場、民間リサイクル施設、太陽光発電施設等に利用されている。

アピール ポイント

- かつて海であった産業廃棄物処分場においてゼロから自然創出を行っており、自然遷移の過程を身近にモニタリングできる場所である。100haの広大な敷地内に、草地、植樹や自生による森林、自然沈下した水面や湿地など多様な環境があり、年を追うごとに当初は見られなかった生き物が入ってきている。周辺の自然地と連続していないため、夕又キや魚類、希少な海岸性植物などの移動経路を考察する上でも、たいへん興味深い場所である。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

- ・産業廃棄物埋め立て終了当初、植生はなかったが、自然の遷移による草原、先駆種の樹木の進入、植栽による落葉樹林、常緑樹林など多様な二次的植生が存在し、それぞれの遷移に合わせた生物が自然にやってきている。

【主な植生】

- ・植栽による常緑樹 ウバメガシ、アラカシ等
- ・落葉樹のクヌギ、エノキ、ムク等
- ・海岸沿いのクロマツ
- ・海流によって運ばれるハマサジ、ハマゴウなどの海岸性の植物
- ・自然に侵入してきたアカメガシワ、ヌルデ、アキニレ、センダンなどの先駆種
- ・草地として維持する区域のススキ、オギなど

【確認された主な動植物など】

- 哺乳類：タヌキ
- 鳥類：オオタカ、ハヤブサ、ミサゴ、トビ、ノスリ、コミミズク、トラフズク、キジ、オオバン ほか
- 爬虫類：シマヘビ、ニホンカナヘビ
- 両生類：トノサマガエル、ヌマガエル
- 魚類：モツゴ、ミナミメダカ
- 甲殻類：モクズガニ、スジエビ
- 昆虫類：ナミアゲハ、キアゲハ、アオスジアゲハ、ツマキチョウ、ムラサキシジミ、ベニシジミ、クマゼミ、アブラゼミ、ニイニイゼミ、ツクツクボウシ、オオカマキリ、チョウセンカマキリ、ハラビロカマキリ、コカマキリ、ショウリョウバッタ、クルマバッタ、マダラバッタ、キリギリス、ヤブキリ、サトクダマキモドキ、ヒメギス、エンマコオロギ、コクワガタ ほか



写真の説明：木に登るタヌキ
(NHK「ダーウィンが来た！」で紹介)



写真の説明：トノサマガエル

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

- ・当地は2004年から20年以上にわたり、府民協働で植樹による森づくり、草刈り等の育林管理、オギ移植による草原創出などに取り組み、現在の多様な自然環境がつけられている。植栽する植物は在来種（近畿圏太平洋側の種）とし、外来植物は可能なかぎり伐採・駆除を行っている。
- ・毎月数回の活動や開催イベントには多くの府民が参加し、生物多様性の学びの場を広く提供している。

【主な植生】

- 植樹地：コナラ・クヌギ・エノキ等の落葉広葉樹、カシ類・クロマツ・トベラ等の常緑樹、その他灌木類
- 草原：オギ・ススキ・セイタカヨシ等の自生草本（一部にオギの移植地）、ヨシ湿地、クズ原
- その他：マダケ林（移植）

【確認された主な動植物など】

- 哺乳類：タヌキ（2011年に初確認、場内で繁殖しているとみられ、活動時にかなりの頻度で遭遇）
- 鳥類：ミサゴ（捕獲した魚を持って飛ぶ姿や電柱の上で食べる姿が観察できる）、ヒドリガモ・カルガモなど多様なカモ類、トビ、チョウゲンボウなど、その他多くの鳥類が見られる。
- 昆虫類：森林性、草原性、淡水性、など多様な環境に応じた昆虫の生息が確認できる。子ども向けに「バッタの運動会」などの虫取りイベントは、都市部の子ども達に好評。
- その他：モツゴ、ミナミメダカ、モクズガニ、スジエビ、ヌマガエル、トノサマガエル、ニホンカナヘビ、シマヘビなどが見られる。



写真の説明：第18回 植樹祭のようす



写真の説明：草刈り作業と子供たちの虫取り観察

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

- ・外周護岸沿いでは、海流や越波で運ばれてきたと考えられる海浜性の希少植物が確認されている。
- ・池や湿地といった水辺エリアは、大阪湾岸では数少ない多くのシギ・チドリ類の生息環境となっている。
- ・草原エリアでは、チュウヒやコミミズクの採餌、オオヨシキリやセッカなどの営巣が見られる。

【確認された希少種】

環境省レッドリストおよび大阪府レッドリスト掲載種

- 植 物：ハマサジ（環境省RL：NT、大阪府RL：CR+EN）、ハマゴウ（大阪府RL：VU）
- 鳥 類：ムナグロ（大阪府RL：VU）／シロチドリ（環境省RL：VU、大阪府RL：VU）／ツルシギ（環境省RL：VU、大阪府RL：VU）／アオアシシギ（大阪府RL：VU）／タカブシギ（環境省RL：VU、大阪府RL：VU）／ソリハシシギ（大阪府RL：VU）／コアジサシ（環境省RL：VU、大阪府RL：CR+EN）／チュウヒ（環境省RL：EN、大阪府RL：CR+EN）／オオタカ（環境省RL：NT、大阪府RL：NT）／トラフズク（大阪府RL：VU）／コミミズク（大阪府RL：VU）／ヒクイナ（環境省RL：NT、大阪府RL：VU）／コサメビタキ（大阪府RL：VU）
- 爬虫類：ヒバカリ（大阪府RL：VU）
- 両生類：トノサマガエル（環境省RL：NT、大阪府RL：NT）
- 魚 類：ミナミメダカ（環境省RL：VU、大阪府RL：VU）
- 昆 虫：コオイムシ（環境省RL：NT、大阪府RL：NT）／オオヨツボシゴムムシ（大阪府RL：VU）



写真の説明：外周護岸の内側で確認されたハマサジ



写真の説明：毎冬に飛来するコミミズク

生物多様性の価値

価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】

- ・100haの広大な敷地の中に多様な自然環境（樹林地、草原、水辺、湿地、池など）があることから、多くの野鳥類の越冬地、渡り途中の休息地、繁殖地、採餌場となっている。

【対象となる動物種とその動物種の生活史の内容】

- ・越冬：ノスリ、ハイタカ、コミミスズク、トラフズク、ジョウビタキ、アオジ（ほか）
- ・渡り途中の休息：アオバト、タゲリ、トラツグミ、キビタキ（ほか）
- ・繁殖：キジ、カイツブリ、オオバン、ケリ、オオヨシキリ、セッカ、ウグイス、メジロ、モズ（ほか）
- ・採餌：多くのシギ類、カモ類、トビ、チュウヒ※、オオタカ（ほか）

※チュウヒは、2006～2009年に3回の繁殖が確認されている。



写真の説明：採餌に訪れたチュウヒ



写真の説明：ソリハシセイタカシギとタゲリ

サイトの活動計画・モニタリング計画

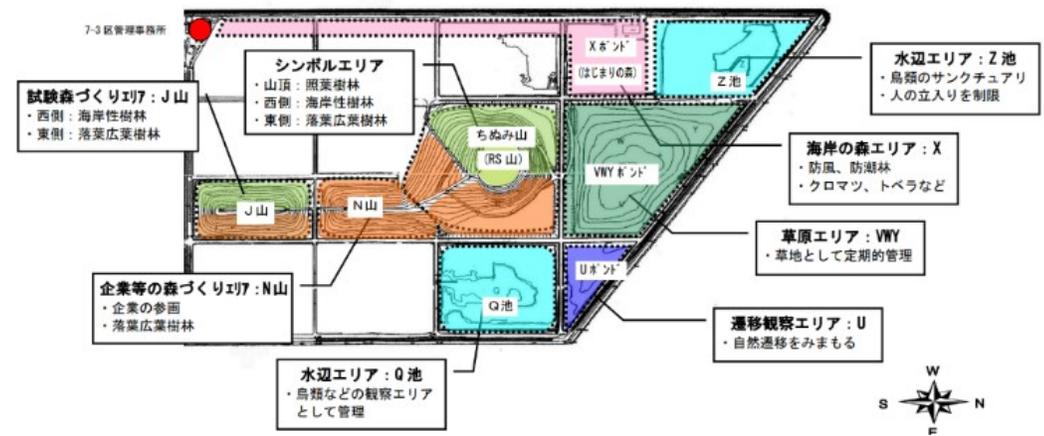
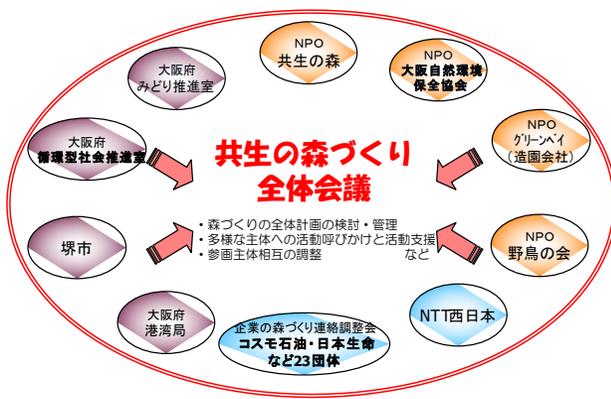
活動計画の内容

■ 基本理念（「共生の森」基本計画 2004年策定）

みんなの想いと知恵と力で創る「共生の森」
 — 大阪湾ハイエリアにおける都市再生の実験場 —

■ 活動計画

「共生の森」森づくり計画（2010年作成）に基づき、エリア毎に管理の考え方を設定して、植栽、下草刈り、外来植物の駆除等を行っている。また、多様な主体による市民参加型の森づくりを進めるため、森づくりに関わる団体等が参加する「共生の森づくり全体会議」を設置している。



モニタリング計画の内容

【モニタリング対象】

■ 哺乳類、鳥類、昆虫類、植物を主な対象とする。

【モニタリング場所】

■ エリア全域

【モニタリング手法】

- ① 哺乳類・昆虫類・植物：ラインセンサス
- ② 鳥類：ラインセンサス及び定点センサス
- ③ 哺乳類：自動撮影カメラ

【モニタリングの実施時期及び頻度】

- ① 毎月1回
- ② 毎月1回
- ③ 通年（10台設置）

【モニタリング実施体制】

- ① NPO法人共生の森
 - ② 日本野鳥の会大阪支部
 - ③ 大阪公立大学
- ①～③の取りまとめはNPO法人共生の森が行う。